

弔 辞

ノゾミ、ここ数年、この時期は毎年当たり前のことのようにあなたの長寿動物イベントの準備をしていました。そんな中、昨年九月二日にあなたは突然いなくなっていました。早いもので、あれからもう一年経ちます。

私がサバンナ担当になった二〇〇一年、あなたは八歳を過ぎた、キリンとしては一番脂が乗った時期で、大きくふっくらした体に、薄い体色ときれいな模様が特徴的でした。ただ、当時は十八頭ほどキリンがいて、ハルコ、ユウガオ、ポタンという存在感の大きいメス達がいたので、それほど目立った存在ではありませんでした。

そんなあなたが私に強烈な印象を残してくれたことが二つあります。

一つは交尾行動です。当時、種オスが長い間不在で、キリンの交尾がどのように行われるのか、よく知りませんでした。でも、あなたは、腰の低い同じ年のサナエというお気に入りのメスの上によく乗っていましたね。その後、本当の交尾を見たとき、まったく同じ動きだったので驚きました。原因はよく分かりませんが、マウントするメスのキリンはあなただけでした。

もう一つは足蹴りです。群れをキリン舎に収容した後、扉の前にいた私に突然前足を出してきましたね。とっさに出した手にパンと当たった感触は今でもよく覚えています。かなり距離があったので、まさか私の近くまで足が伸びてくるとは思いませんでした。なぜ、足を出してきたのか当時も今も分かりませんが、あの一回だけだったのでよく覚えています。

そんなわけで、私にとって、あなたは少し怖くて理解が難しいキリンでした。

また、子どもがなかなかうまく育たなかったですね。二〇一六年、あなたにとって四頭目の子どもがすぐ死んでしまったあと、あなたは他の子どもにも乳を与えるようになりました。何年もの間、欲しがれば、どの子どもにも乳を与え続けていたので、ずいぶん親しまれていたように感じました。そして、二〇二〇年にまさかの五頭目の出産。あなたは二十七歳でノンを出産しました。超高齢出産でした。最後の最後にちゃんと自分の子どもを残しましたね。調べてみると、あなたの母親のノブエは生涯で十五頭出産しましたが、一九九二年七月に十五頭目として生まれてきたのが、あなただったのですね。当時ノブエも二十五歳での超高齢出産でした。血は争えないですね。

最後に。あなたは、二〇〇九年から十年以上にわたり、最年長キリンとして常に群れの安定に貢献してくれました。それだけではなく、キリンの子どもを搬出させるときは、群れから離れる練習パートナーとして子どもの不安を取り除いてくれました。おかげでいつも無事に搬出作業ができました。ここ五、六年は練習パートナーという自分の役割が分かっているかのような動き方をしていたので、こちらの意図をよく理解しているように感じていました。

昨年、朝サバンナに向かうトラックの中で、放飼場に倒れて横たわっているあなたを見たとき、「力尽きてしまった」と瞬時に思いました。二十八歳での大往生でした。

たくさんいい仕事をしてくれました。だから、最後はゆっくり過ごしてほしいと思っていまし

た。三十歳まで生きてくれたらいいなと思っていました。でも限界だったのですね。ノンは今後六か月になる直前でしたが、もう大丈夫と思ったのですね。その通り、今もノンは元気に成長しています。最近の姿形が少しあなたに似てきました。

あなたとは、長い付き合いでした。最初の頃は少し怖い存在でしたが、いつのまにか、あなたと意思の疎通ができているように感じられるほどの関係になれたことは、サバンナで仕事をしてきた中で最高に良い体験でした。

これまで本当にありがとうございました。そして、お世話になりました。どうか、ゆっくり天国で休んでください。そして、ノンの成長を温かく見守っててください。

令和3年9月15日 多摩動物公園 飼育展示課 清水 勲